

砂利採取業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	9 ～ 10	仮橋に使用したH鋼をドラグショベルで道路脇に片付ける作業で、先に置いてあったH鋼の上に降ろしたのち玉掛ワイヤーを外してショベルで引き抜こうとしたところ、突然H鋼が崩れ落ち、玉外しをした者がH鋼の下敷きになった。	521	5	1 ～ 9
1999	1	11 ～ 12	砂利碎石プラント内にある2次クラッシャー用ホッパー内の原石の状態を点検するため、投入口からのぞき込んでいたところ、雪で足を滑らせて、深さ約2mのホッパー内に転落した。	162	1	10 ～ 29
1999	6	11 ～ 12	バックホウで沈殿池脇の道を移動中に左側キャタピラが池に落ちて機体が約15度傾いてしまったので、運転を交代して機体を旋回させたところ、さらに機体が傾いて横転して運転席が水没し、そのとき操作レバーが足に引っ掛かって、脱出出来ないまま溺死した。	142	1	30 ～ 49
1999	11	16 ～ 17	砂利の採取場において、砂利層の一番底から地上まで、4段ステップを設けて4台のドラグ・ショベルで中継して砂利をダンプに積み込んでいるときに、法面が崩壊し一番底で作業中のドラグ・ショベルが崩壊した土砂に埋没し、運転者も一緒に土砂に埋没した。	711	5	10 ～ 29
2000	2	9 ～ 10	碎石プラントの除雪で、運転中のベルトコンベアに移動はしご(3.6m)を掛けてベルトローラーに付着した雪の塊をハンマで叩き落とそうとしたときに、腕から首部にかけてベルトコンベアに巻き込まれた。	224	7	1 ～ 9
		14	砂利採取場内の沼(水深約8m)の水を用水路に放水するために、自家製のいか			10

2000	1	～ 15	だ上に取付けられている水中ポンプが故障したので新しいポンプに取替えするため、同僚と新しいポンプを仮吊りしたいかだに乗込んで据付け位置へ移動中に、いかだが転覆して2人とも水中に放り出され、1名が水死した。	391	10	～ 29
2000	1	10 ～ 11	採取した砂からヘドロ等を分離する洗浄プラントにおいて、小型の洗浄装置のホッパーからコンベアで砂を回収する工程でコンベアから地上に落下した砂をスコップで取り除いているときにコンベアのローラーの部分に体を巻き込まれた。	224	7	～ 29
2000	11	14 ～ 15	砂採取場の選別プラントにおいて、ホッパー下のベルトコンベヤーのプーリーとベルトとの間に左腕部を巻き込まれた。	224	7	1 ～ 9
2001	2	10 ～ 11	採取した土石を分別するプラントのホッパー内に入り凍りついて固まりになった土石を小割して、ホッパー内に付着していた土石とともにホッパーの排出口まで滑り落ち、胸元まで埋もれた。	169	1	～ 29
2001	9	10 ～ 11	砂利採取場において、池の中からドラグショベルで地上に盛土した砂をブルドーザにより約70m離れたダンプへの積込場へ運搬していたときに、水深約4mの池へ転落した。	141	1	～ 49
2001	9	16 ～ 17	砂利プラントにおいて、沈殿池からクラムシェルで引き揚げた泥をブルドーザで整地する作業に従事していた者が戻らないため、同僚が探しに行ったところ約100m離れた別の沈殿池に向かうキャタピラの跡があり、池の中で死亡していた。	141	1	～ 49
2001	11	16 ～ 17	タイヤショベルによりホッパーに土砂を入れる砂通しという作業において、ダンプ運転手が作業をしているはずの場所に誰もいないので不審に思い、会社に連絡し捜したところホッパーの中で埋まっている作業者を発見した。	391	7	～ 29
2001	2	10 ～ 11	砂利採取場への取付道路を拡張するためブレーカーで法面(岩盤)を掘削していたところ、岩盤が幅約2m、高さ8mにわたって崩壊し、真下で作業していたブレーカーの運転席を岩石が直撃し、ウィンドガラスを割って頭部に当たった。	711	5	1 ～ 9

2001	12	11	砂利を集積場へ運んでいたベルトコンベアのモーターが故障したので砂利 ホッパーから砂利を抜いてダンプで集積場へ運ぶことになり、5～6年使用し ていなかったため、出口が腐食し開閉できなくなっていたので修理を行いホッ パー内の砂利を抜いてダンプに積んでいたときに、ホッパー内から声がある ので行ってみるとホッパーの中にヘルメット部分が出た状態で埋っていた。	523	1	10 ～ 29
2002	8	10 ～ 11	ダンプトラック（11.5 t）に道路養生の砂利を積載して運搬途中に、作業用 道路（傾斜約10度）に車両を止めて運転席を降り同僚（重機オペ）のところ へ歩いて向かっていたときに無人の車両が動き出し、左後輪で轢かれた。	221	6	1 ～ 9
2002	8	15 ～ 16	自社の資材置場で、ホイールクレーン（吊上げ荷重45 t）のオイル交換を終 了してクレーンの保管場所である駐車場に戻るため、資材置場から農道に左 折した直後に対向車線の路肩から1.3m下の路外に運転席を下にして転落し た。	212	17	10 ～ 29
2003	2	15 ～ 16	砂利の洗浄・選別作業場で、インパクトクラッシャーのハンマー整備作業を 行っていたときに、インパクトクラッシャー下方のベルトコンベヤに巻き込 まれた。	162	7	10 ～ 29
2003	4	0 ～ 1	砂利採取プラントの砂利の洗浄水を処理する沈殿槽において、点検台から検 査用器具（2mの鉄棒）を使用して沈殿槽の底にたまった汚泥の状態等の検 査中に、水深約2.3mの沈殿槽内に転落し溺死した。	391	10	30 ～ 49
2003	7	8 ～ 9	円筒型骨材ビン内に堆積している砂混じりの砂利を排出するため、ビン底の 排出口から内部に入って人力により排出口へ砂利をかき落す作業を行って いたときに、ビン内に堆積していた砂利が崩れてきて排出口へ砂利とともに転 落した。	523	5	1 ～ 9
2003	11	16 ～ 17	砂利採取現場での作業を終えて社用車で帰社する途中、故障のため路肩に停 止していた10tダンプ・トラックに追突した。	231	17	30 ～ 49
2004	1	8 ～ 9	コンベヤの除雪作業中、コンベヤの上に乗る、上部に設置してあるモーター の調整を行っていたところ、コンベヤ先端と点検用通路の間の砂利投下口か ら約5m下の地面に墜落した。	414	1	1 ～ 9

2004	8	14 ～ 15	トラクター・ショベルのマフラー交換作業中、トラクター・ショベル上、高さ2.4mのところから墜落した。	141	1	1 ～ 9
2004	4	16 ～ 17	砕石プラントのベルトコンベヤのローラーと軸受けとの隙間（5cm）に、巻き込まれた。	224	7	10 ～ 29
2004	5	10 ～ 11	自社所有地から出た土砂をダンプ3台で災害発生地まで運搬、災害発生地内にある池を埋め立てる作業を、ドラグ・ショベル（車重35t）を運転し行っていたところ、ドラグ・ショベルごと池に転落した。	142	1	1 ～ 9
2004	9	9 ～ 10	砂採取場所にできた池の端にドラグ・ショベルを設置し、掘削作業を行っていたところ、ドラグ・ショベルごと池に転落した。	142	1	1 ～ 9
2004	11	13 ～ 14	投入口に鉄製の棧がついたホッパー上で、棧に詰まった砂塊を唐鍬で砕き落としていたが、唐鍬を棧の間から落としたため、取り出そうと機械を止めずにホッパー内に入ったところ砂に埋もれた。	711	5	10 ～ 29
2004	9	16 ～ 17	砂利採取船で、採取した砂利を採石プラントまで運んでいたところ、船から川へ落ちた。	713	10	1 ～ 9
2005	4	8 ～ 9	砕石プラントにおいて、ダンプトラックの荷台を上げて、荷台下のシャフトのグリスアップ作業をしていたところ、降下してきた荷台とフレームとの間に挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2005	2	14 ～ 15	湖上に係留中のしゅんせつ船の機関室内部で配管の取替え作業中、被災者が配管のフランジの最後のボルトをガス溶断したところ、当該配管が落下し、配管の下敷きとなった。	419	4	10 ～ 29
2005	9	13 ～ 14	作業用足場（高さ2.4m）で、発酵槽にシートを張るための作業中に墜落した。	416	1	10 ～ 29

2006	1	15 ～ 16	砂利プラントにおいて、プラント全体の運転管理を一人で行なっていた被災者が現場にいないことに山砂の搬送から戻ってきた同僚が気づき、周辺を探していたところ、ホッパー内部で山砂に埋もれている被災者を発見した。	523	1	～ 9
2006	1	0 ～ 1	土砂採取場において、法面上部にハの字型の亀裂（長さ10～15m）が2本入っているのを発見したため、ドラグ・ショベル3台を使用して法面の崩壊を防ぐため、土盛り作業を行っていた際、法面50m、幅80m、高さ30m（土量120,000立方メートル）の土砂が崩壊して車両ごとオペレーター3名が被災し、2名が死亡した。1名は、自力で脱出した。	711	5	～ 99
2006	7	12 ～ 13	降り続いた雨の影響により、事業場近くを流れる川が増水し、事業場内にあった重機等が浸水する恐れがあったため、4名の労働者で事業場内の高台に重機等を移動させていたとき、増水した川の水に被災者が流された。	713	10	～ 29
2006	10	14 ～ 15	砂利プラントの原石ホッパーに通じる傾斜路法面下にトラクターショベルが仰向けに転落していることに同僚労働者が気づき、近づいて運転席を確認したところ、閉じ込められている被災者を発見した。	141	1	～ 29
2007	9	7 ～ 8	被災者は、自社の別工場に出張し、砂利選別プラント点検修理のため、必要となる手工具を持ち出し、歩いて修理場所まで戻る途中、前進するトラクター・ショベルにひかれた。なお、トラクター・ショベルの運転者は、被災者が100mほど手前で車両の進行方向と対向して歩いていることを目視で一度確認していたが、被災者が見当たらないことに気づき、運転席から後方確認したところ、ひかれた被災者を発見した。	141	7	～ 9
2007	6	16 ～ 17	砂利採取場において、地上より深さ6.5m下にあるドラグ・ショベルを地上まで上げるため、下部31度～上部38度の勾配の掘削面を登坂し、バケットを地上面に突き刺してバランスを取り、地上に登りきろうとしたところ、安定が保てず、ドラグ・ショベルもろとも転落した。	142	1	～ 9
2007	7	9 ～ 10	被災者が、生コンの材料となる砂利などをトラックで運搬し、生コンプラントで砂利を降ろした帰り、堤防道路を北に走行中に南進してきた対向車と衝突し、その後堤防を転落し堤防下の民家の石垣に激突した。	221	17	～ 49
			被災者は、ボラ土製造工場内において、ボラ土の入った荷（フレコンバツ			

2007	7	16 ～ 17	ク、重量約650kg)のはい付け作業をフォークリフトを使用して1人で 行っていた。8つ目(高さは2段積み)の荷を積む時に、床面に窪みがあっ たため、その床面へパレットを敷き込もうと荷をつり上げたままフォークリ フトの運転席を離れて、パレットを設置している時に、フォークリフトが被 災者の方向へ動き出し、荷の下敷きになり死亡した。	222	6	10 ～ 29
2008	8	11 ～ 12	ダンプトラックが運んでくる土砂をブル・ドーザーで単独で均す作業を朝7 時頃に行っていた。ブル・ドーザーを後進させている途中に運転席(キャ ブ)から転落して、クローラとブル・ドーザー本体の間にはさまれて死亡し た。	141	7	10 ～ 29
2008	5	9 ～ 10	石と砂が混じった物を砕く作業を行うプラントにおいて、ベルトコンベヤー を稼働した状態でホッパー内に入っていたところ、ホッパーの下部とベルト コンベヤーの間にはさまれて死亡した。	224	7	10 ～ 29
2009	12	13 ～ 14	重機オペレーターである被災者は、採石場でドラグ・ショベルを操作して掘 削し、ダンプに積み込む作業を行っていた。重機内で昼食休憩中に便意を生 じ、掘削した地山近くで排泄しようとしたところ、地山が崩壊し、土砂に埋 もれた。	711	5	10 ～ 29
2009	1	14 ～ 15	採石場内において、ドラグ・ショベルを運転して移動中、ドラグ・ショベル ごと路肩から斜面を約35m転落した。	142	1	10 ～ 29
2010	5	11 ～ 12	湖底から砂利を採取し、分別する現場において、採石分別運搬用のベルトコ ンベアで分別作業を行っていた被災者が、コンベアのローラー部分に巻き込 まれ、左上腕、左胸部を挟まれ、死亡したもの。被災者が、何らかの理由に よりコンベアの回転部分(カバー無し)に近づいたとみられる。	224	7	1 ～ 9
2010	10	15 ～ 16	砂利採取の現場において、被災者が伐木した杉を玉切りする作業を行ってい た際、玉切りした丸太(長さ4m、直径18cm)を移動させようと、玉切 材の片端を地面につけたまま、もう片端を肩上位の高さまで持ち上げたところ、 地面につけていた玉切材の端がぬかるんで滑り、被災者の肩、胸、太も	522	6	1 ～ 9

			もに玉切材が激突し、被災者は胸を骨折し、当該骨折箇所付近の内臓からの出血により死亡した。			
2011	9	8 ～ 9	砂利採取場において、被災者はドラグショベル（機体重量15.38t）を運転して埋め戻しおよび転圧作業を行っていた。砂利を降ろしにきたダンプ運転手の同僚が、転圧作業をしていたドラグショベルが2m下の雨水が貯まってできた池（水深1m）に横転しているのを発見した。ドラグショベルは運転席まで水に浸かっていたが、死因は圧死によるものだった。	142	1	10 ～ 29
2011	8	11 ～ 12	被災者は、砂利プラントにおいて、トラクターショベル（機体重量14.36t）を運転し、骨材原料の原石を原石山の下部から山の上部へと運搬する作業を1人で行っていたところ、同僚の作業員が原石山の山腹にある幅3m、傾斜角11度の斜路の側方下部3mのところに180度転倒し、運転席が潰れているトラクターショベルと共に運転席の中の被災者を発見したものの。なお斜路の一部は崩壊していた。	141	1	1 ～ 9
2011	6	10 ～ 11	被災者は砂利プラントの原石ホッパーに川砂利を投入する作業をトラクターショベルを使用して一人で行っていた。製品である砂利が出てこないと同僚から報告を受けた工場長が原石ホッパーを見に来たところ、ホッパーの底部排出口から両足が出ている状態の被災者を発見した。被災者はすぐに救助され病院へ搬送したが、窒息により死亡したものの。	418	1	1 ～ 9
2011	7	9 ～ 10	砂利採取予定地において、被災者は1人でダンプトラックと掴み機を交互に運転し、材木の搬出作業を行っていた。被災者が掴み機を運転し、無人ダンプトラックに材木を積んでいた際、同トラックが下りの坂を逸走したため、これを止めようとした被災者が誤って同トラックに轢かれたものと推定される。なお、同トラック運転席側の後輪に血痕が付着していた。	221	7	1 ～ 9
2012	6	18 ～ 19	砕石プラントの保守作業中、稼働しているベルトコンベアに上半身を挟まれ死亡した。	224	7	30 ～ 49
		14	ホッパーへの砂利投入作業の際、ホッパーシュート部に砂利が堆積し作業に支障が生じたため、外部から除去作業を行った。被災者は、除去できなかつ			1

2012	4	～ 15	た一部の砂利を除去するため、ホッパー下部に設置されているベルトフィーダからホッパーシュート内部に入った際、砂利に埋まり死亡した。	418	5	～ 9
2012	12	～ 8	被災者は砂利搬送作業を行うため採石船に乗り込んだ。その際、出航前の打ち合わせを行う前に珈琲を飲むため、早めに船に乗り込んでいた作業員が甲板下の空きスペースに備え付けられていたプロパンガスボンベが直結されていたガスコンロに火をつけようとしていたが、点火装置が故障していたため、柄の長い携帯用点火装置で火をつけたところ引火し、爆発した。	513	14	～ 9
2013	10	～ 14	被災者は、砂利プラントでコンベヤーの監視業務を行っていたところ、コンベヤーのベルトとローラーの間に上半身を巻き込まれた状態で発見された。	224	7	～ 9
2013	1	～ 6	被災者は、事務所で意識を失い、脳挫傷、外傷性脳内血腫の診断を受け、死亡した。現認者はいないが、傷病名及び同僚労働者の証言から、当該事業場に最も早く出勤した被災者は、運転してきた自家用軽トラックを物流部の事務所前に止め、車両から降りた後、歩行中に転倒したことにより地面に頭部を打ち、被災に至ったものと推測される。	416	2	～ 29
2013	2	～ 11	被災者は、砂利採取船で砂利採取作業を行っていたが、悪天候のため作業は中止となった。その後、被災者は採取船の点検整備等を実施していたが、業務終了時間になっても岸に戻らず、岸から採取船までの渡船が転覆しているのが発見されたため、被災者を捜索したところ、水深約5メートルの川底で死亡している被災者が発見された。尚、いつも着用していたライフジャケットは、着用していなかった。	713	10	～ 9
2014	11	～ 7	ダンプトラックの運転手である被災者は、休日に1人でダンプトラックの荷台を上げた状態でP T O等のグリスアップをおこなっていたところ、荷台と車体との間に挟まれて死亡しているのを発見された。	221	7	～ 9
2014	10	～ 12	同僚が、プラントにて、トラクター・ショベルを運転し、砂利等の運搬作業を行っていた際、通路上に被災者がいることに気が付かず、接触し、地面に倒れている被災者が発見された。	141	7	～ 9

2014	7	11 ～ 12	砕石プラントにて、砕石機への原石の投入作業中、砕石が積み上げられる石山の上方で倒れている被災者が発見された。	162	7	1 ～ 9
2014	3	17 ～ 18	被災者は、砂採取場にて、ドラグショベルで掘削した土石をブルドーザーで押していたところ、ブルドーザー直下の地盤が崩落し、崩落してできた穴に転落。転落した衝撃でブルドーザーの外に投げ出され、上半身が土砂に埋まり、窒息死した。	141	1	10 ～ 29
2014	3	9 ～ 10	事業場の責任者である被災者は、木板20枚（約20キロ）をドラグショベルのバケットに入れ、スロープ（延長約66.5m、勾配13～15度）を前進し下っていたところ、湖岸で停止せず湖内に進入し、溺死した。	142	10	10 ～ 29
2015	8	11 ～ 12	被災者は砕石プラントの原石投入ホッパー横の運転室付近で、プラントの機械運転操作及び原石の状況確認を担当していた。午前11時30分、被災者が座り込み体調不良を訴えたため、休憩室へ連れていき休ませていた。回復しないため病院へ連れて行こうとしていたところ意識が消失した。搬送先病院で死亡が確認された。死因は熱中症に伴う急性循環不全だった。	715	11	10 ～ 29
2015	4	11 ～ 12	被災者は岩石採取場において、ドラグショベルを使用し、砕石を4tトラックに積み込み、2kmほど離れた本社へ運搬する作業を行っていた。岩石採取場から一般道へ通じる構内道を走行中、被災者は傾斜11度の離合帯付近にトラックを停車させ、エンジンをかけたまま降車した際に、トラックが逸走し轢かれたもの。	221	17	10 ～ 29
2015	3	11 ～ 12	事業場内の沈殿池（水が抜かれた状態）中央のくぼみ付近で倒れている被災者が、他の労働者により発見され、救急搬送されたが、脳挫傷により死亡したものの。被災者の倒れていた箇所の上方には作業床（池の底面より高さ約4メートル）があり、被災者の発見時、当該作業床に設置された水の配管バルブは開放状態となっており水が流れ出していた。〔確定報告〕	414	1	1 ～ 9
2016	11	15 ～	砂の一時堆積場からトラクターショベルで砂をダンプトラックに積み込み、砂利加工などを行うプラントへ運搬する作業において、ダンプ運転手がプラントに砂を投入し、堆積場に戻ったところ、トラクターショベル運転手であ	523	5	1 ～

		16	る被災者が砂にうつ伏せで肩まで埋まっているのを発見した。その後、病院に搬送され治療を受けていたが、翌日に死亡した。			9
2016	6	15 ～ 16	被災者は、事業場の砂利採取場において役員である専務と2名で細砂の採 業務に従事中、砂を掘削した箇所に溜まった湧水（水深2.65m）に転落 し、溺死した。被災者は、湧水が溜まった箇所から離れた位置で、ドラグ・ ショベルを用いたダンプトラックへの細砂の積み込み作業を行っていたもの の、姿が見えなくなったことから水中を捜索したところ、発見された。	713	10	1 ～ 9
2017	11	12 ～ 13	コンクリート用骨材の砂プラント内において、構内下請業者の労働者1名 が、高さ約3.6mの砂ホッパー内の砂が凍結していたので、ホッパー下部 の砂排出口に上半身を入れて電動ピックを用いて凍結した砂を崩していたと ころ、崩れ落ちた砂によりホッパー内で埋まり、被災した。	418	5	10 ～ 29
2017	4	10 ～ 11	採石場において、労働者3名で不要な土砂の掘削・搬出を行う表土剥ぎ作業 を行っていた。被災者はクローラダンプ（不整地運搬車）を使用し土砂の運 搬を行っていたが、土砂の排出場所である路肩から、約5メートル下の土砂 集積場にクローラダンプごと転落した。	227	1	1 ～ 9
2017	2	14 ～ 15	電気工事会社が町内で施工する電柱建替工事の応援に行くため、事業場から 作業場に向けて高所作業車を1人で運転し、国道（片側1車線）を走行して いたところ、吹雪のため減速運転していた大型トラック（箱車）に追突し、 同日死亡した。	224	1	1 ～ 9
2019	10	12 ～ 14	山砂採取場にて、斜面高さ60メートル上部で掘削して下方に落とすことに より堆積した山砂をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込んでいたと ころ、斜面上に堆積していた山砂が崩壊してドラグ・ショベルとダンプト ラックが埋まり、ドラグ・ショベルの運転手が死亡した。	711	5	10 ～ 29
2019	7	6 ～ 8	ダンプトラックで走行中、道路右側のガードレールを突き破り約10メート ル下に転落。その後、医療機関に搬送されたが、後日死亡した。	221	17	1 ～ 9
2019	2	10 ～	被災者は、コンベアの点検中に、左腕を挟まれて意識がなくなった状態で発	224	7	10 ～

		12	見され、搬送された病院で死亡が確認された。			29
2020	11	6 ～ 8	事業場敷地内に設置されたホッパーの内部において、被災者が電動工具を用いてホッパー内部側面及び流出口で凍った碎石を砕く作業を行っていたところ、ホッパー内部で作業していた被災者に気付かず、別法人の作業員がトラクター・ショベルを操縦してホッパー上部より石を投入したことにより、被災者がホッパー内で石に埋まった状態で発見されたもの。	523	4	1 ～ 9
2020	4	10 ～ 12	砂利選別プラントの敷地内において死亡している被災労働者が発見されたもの。被災労働者は、工場長とともに重機の修理作業を行っており、敷地内にある休憩室に一人で部品等を取りに行くために歩いて移動していたところ、同僚の労働者が運転するトラクター・ショベルに轢かれたものとみられる。同僚の労働者はトラクター・ショベルで砂利をホッパーへ投入する作業を行っていた。	141	6	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。